

## 訪問リハビリテーションちかもり

主任 PT 佐藤健三

### はじめに

訪問リハビリテーション（以下、リハ）ちかもりでは、本年も病院から在宅の入り口、自宅から社会への入り口のステージを中心に、医療機関・介護保険サービス事業所・地域資源等と連携を図りながら、できるだけ豊かな対象者の在宅生活を支援してきた。しかしながらコロナ禍の影響が否めない1年であった。

### 活動状況

#### ① 利用者の属性（2020.12 現在）

利用者の年齢は 49～96 歳の平均 75 歳。内訳は 64 歳未満の壮年層が約 2 割、前期・後期高齢者が各々約 3 割、超高齢者が約 1 割であり、昨年とほぼ同様の傾向であった（図 1）。疾患は例年同様、脳血管疾患が約 7 割を占めていた（図 2）。また要介護度も例年同様、要介護 2・3 のいわゆる中度障がい者が約半数を占め、要支援 1～要介護 1 のいわゆる軽度障がい者が約 3 割、要介護 4・5 のいわゆる重度障がい者が 2 割であった（図 3）。居住地（訪問先）は高知市内が約 8 割を占め、昨年に比し隣接する市町村への訪問が増加していた（図 4）。

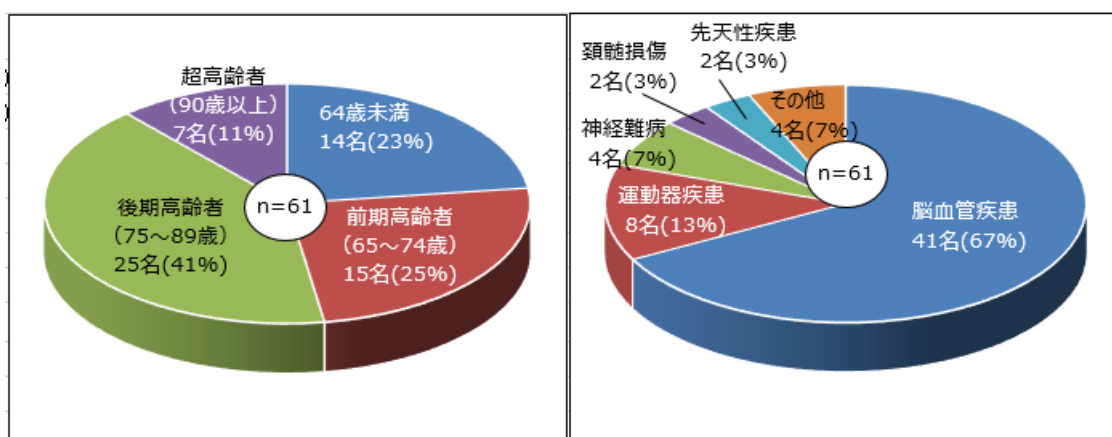


図1. 利用者の年齢

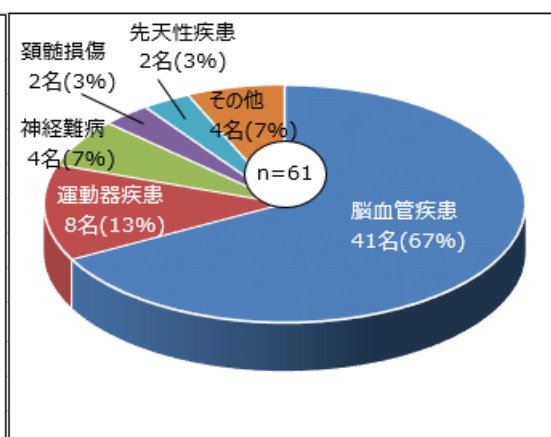


図2. 利用者の主疾患

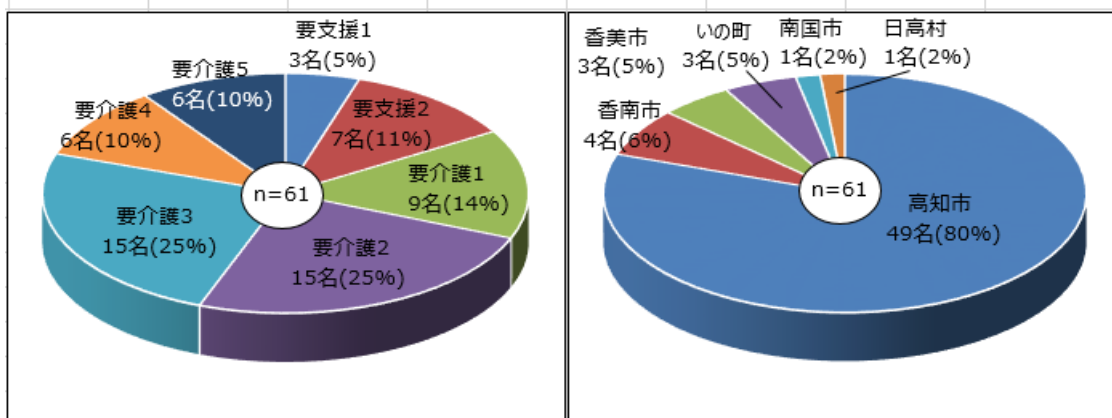


図3. 利用者の要介護度

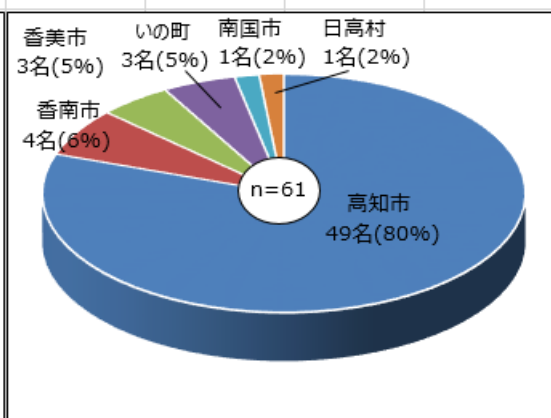


図4. 利用者の居住地

② 運営状況（2019年・2020年実績比較）

スタッフは昨年同様、専従理学療法士4名と作業療法士2名、非専従言語聴覚士2名の計8名で運営してきた。年間延べ利用者数は前年比41名・5%減少の744人（図5）。これに伴い年間延べ訪問件数は392件・8%減少（図6）、年間新規ケース数は約4割、年間修了ケース数は約1割の減少がみられていた（図7）。これらの要因はコロナ禍の影響による中止やキャンセル数の増加と、後で述べる拠点病院からの新規依頼件数の減少が大きいといえる。平均利用期間は昨年同様、平均約9ヶ月間の利用で支援を修了する傾向にあった（図8）

また本年から、地域支援総合事業の一環である「訪問C事業」を高知市より委託を受け、2事例の支援に携わらせていただいた。初の試みであり、今後とも実績を重ね、少しでも運用の充実化に寄与したい。

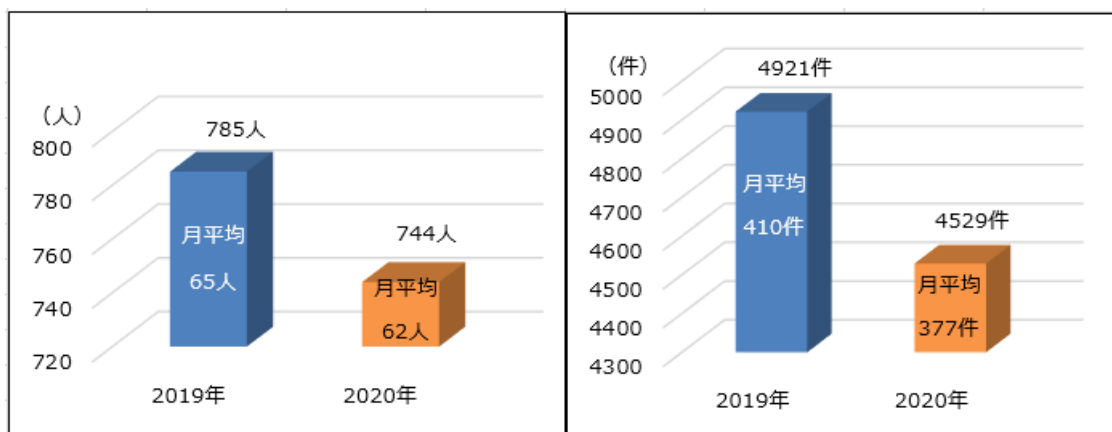


図5. 年間延べ利用者数（2019年・2020年実績比較）

図6. 年間延べ訪問件数（2019年・2020年実績比較）

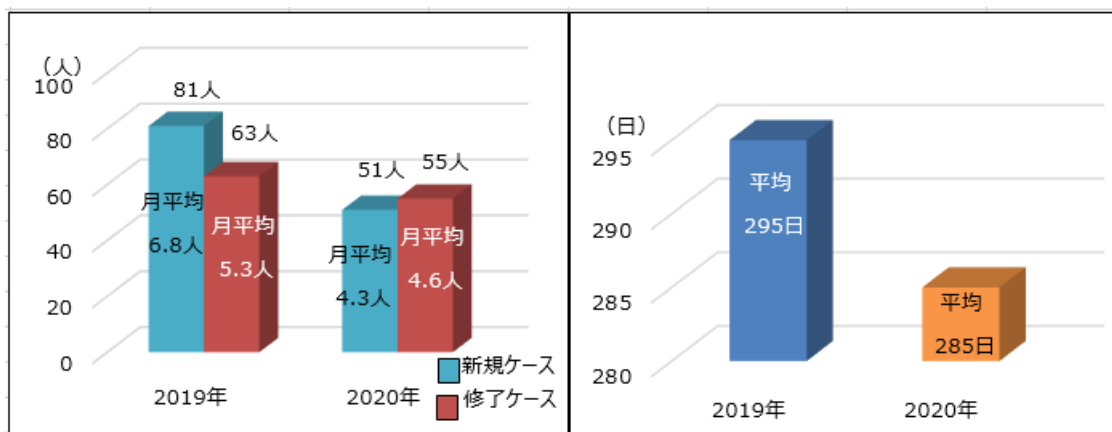


図7. 年間新規および修了者数（2019年・2020年実績比較）

図8. 修了ケースの平均利用期間（2019年・2020年実績比較）

③ 連携状況（2019年・2020年実績比較）

新規ケースの指示依頼元は拠点病院となる近森リハビリテーション病院からの依頼件数が約4割減少していた。また他の近森会グループ、地域医療機関からの依頼件数に著変はなかった（図9）。その要因は、特に新型コロナウイルス感染症予防のため、退院前の退院前家庭訪問指導が制限されたことから、必然的に訪問リハの同行件数も数件に留まっており、近森リハビリテーション病院との連携が希薄とならざるを得ない状況になっていた点が大い。しかしその一方で新たな試みも行ってきた。コロナ禍の影響から訪問リハ計画診療で来院することが困難となったことからTV電話診療を試みてみた。今後とも感染状況に応じた

迅速な対応をしていきたい。

地域での在宅支援チームとしての連携に関しても、コロナ禍の影響で担当者会議・地域ケア会議・リハ会議等のケース会議の開催が制限されたため、電話をツールとする連携が主となった。その経緯からケース会議への参加率は大きく減少していた（図10）。

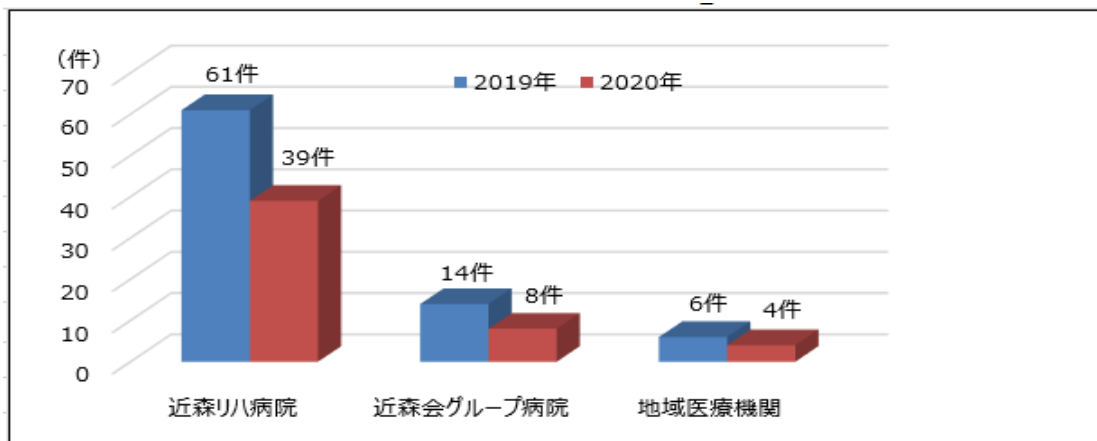


図9. 新規ケースの指示依頼元（2019年・2020年実績比較）

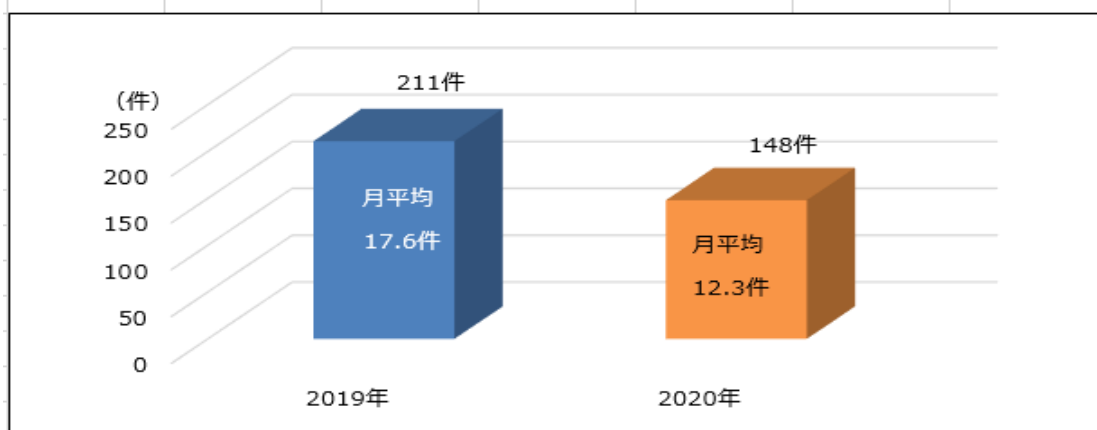


図10. ケース会議への参加状況（2019年・2020年実績比較）

#### ④ 支援成果

生活期リハの最終的な成果となる利用者の社会参加状況をみると、昨年と比し、社会参加に繋がった利用者の割合が若干増加していた（図11）。

また訪問リハ終了後のモニタリング評価が可能であった44名を対象に日常生活動作能力の自立度を反映するBI（Barthel Index）、日常生活関連動作能力の自立度を反映するFAI（Frenchay Activities Index）、生活空間の拡がり度を反映するLSA（Life-Space Assessment）の成果をみてみると、いずれも有意に向上していた（図12. 13. 14）。なおスタッフ、利用者ともに、毎回楽しみにしてきた恒例の社会参加支援は、コロナ禍の影響で残念ながら一度も開催することができなかった。来年の情勢に期待したい。

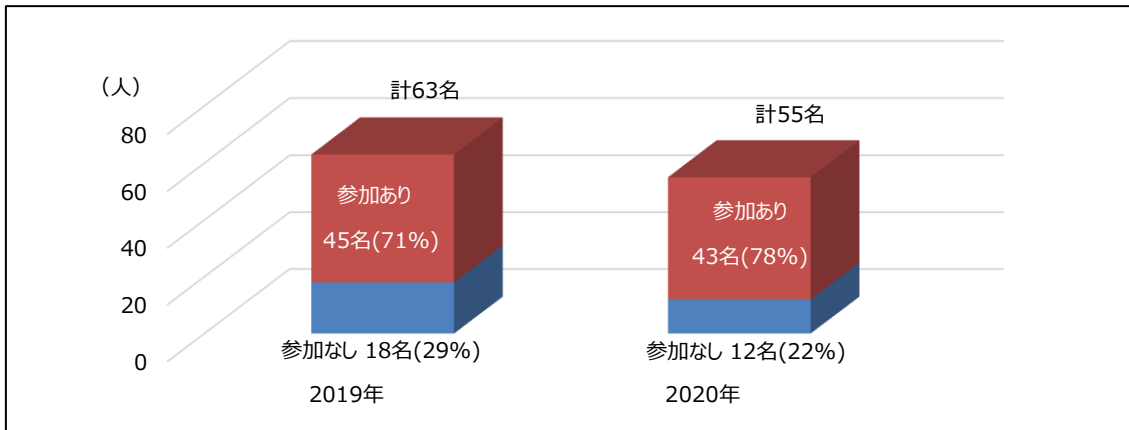
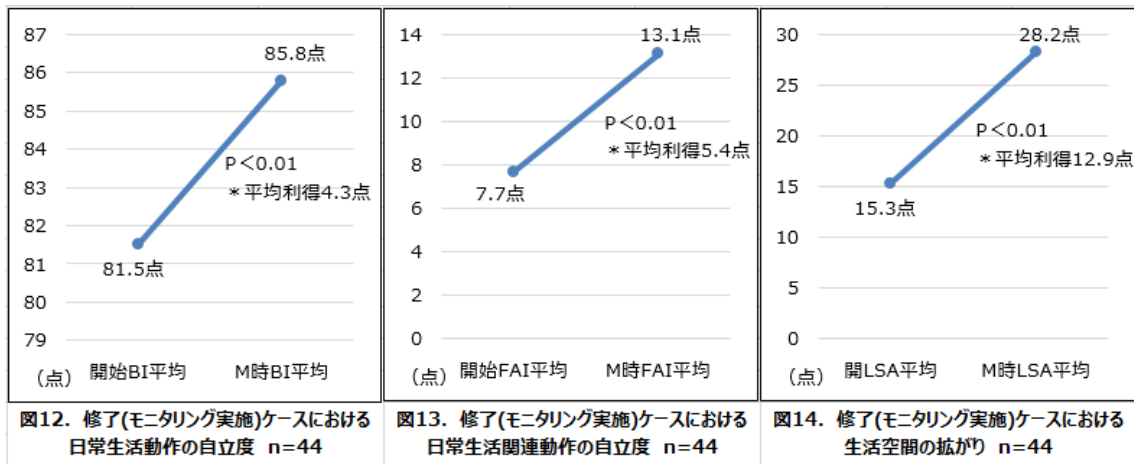


図 11. 修了ケースの社会参加状況 (2019年・2020年実績比較)



## おわりに

新型コロナウイルス感染症の影響が大きい1年であった。来年、情勢がどう変化するか未知数な点も多いが、この1年で得られたノウハウを活かした運営と支援に努めたい。同時に高知市からの委託を受けた訪問C事業の充実化に向けた一助となるようにも努めたい。そして高齢障がい者の社会参加を促進していくために、より病院や地域との連携、協働を強化し、幅広いニーズに対応していきたい。